

当資料は当社独自調査によるもので転載可能です。

また当資料の情報をもとに行った行動によるトラブルや損害賠償問題などについては、当社は一切の責任を負いません。

2018 ICO レポートとSTOへの移行について

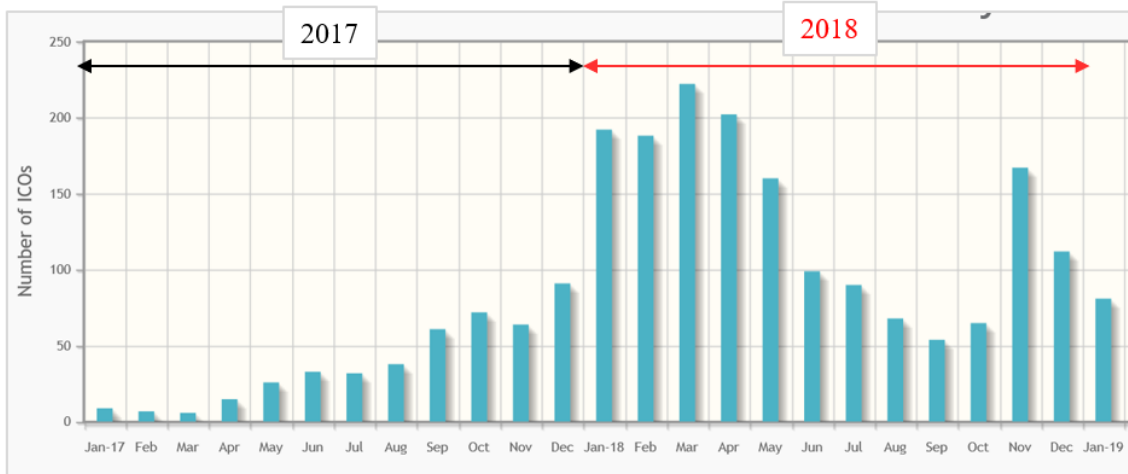
2019年1月28日作成

※当資料で採用されている数字はCoinscheduleによって定期的に更新されます。集められた情報の合計は各icoプロジェクト自身によって提供され、Coinschedule、当社によって独自に検証されるものではありません。

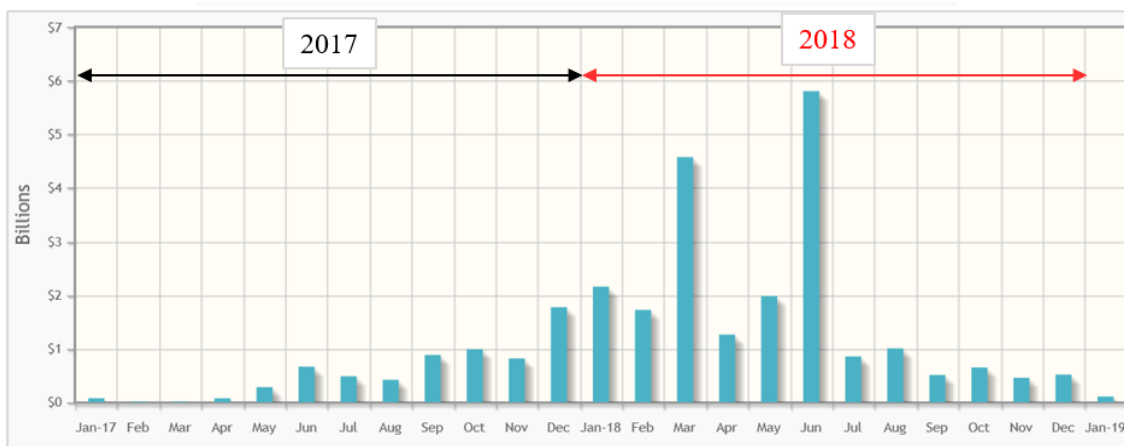
1) 2017-2018年 世界の仮想通貨ICOプロジェクト資金調達状況

(期間：2017年1月1日～2018年12月31日)

ICOプロジェクトの終了件数



ICOプロジェクトの資金調達金額



2018年のICO調達額

合計：2兆2638億円
件数：1,075件

※金額は日本円 (1ドル=110円換算)

Month	件数	調達額 (日本円)
Jan	97	¥236,363,532,790
Feb	110	¥188,934,287,190
Mar	112	¥500,463,394,530
Apr	121	¥139,476,187,510
May	145	¥218,399,522,110
Jun	99	¥638,430,033,450
Jul	90	¥94,636,614,820
Aug	68	¥111,315,859,600
Sep	54	¥56,906,039,960
Oct	65	¥72,121,582,610
Nov	65	¥49,664,094,920
Dec	49	¥57,146,126,070
合計	1,075	¥2,363,857,275,560

※金額は日本円 (1ドル=110円換算)

2) 2018年 世界の仮想通貨ICOプロジェクト資金調達BEST10

(期間：2018年1月1日～2018年12月31日)

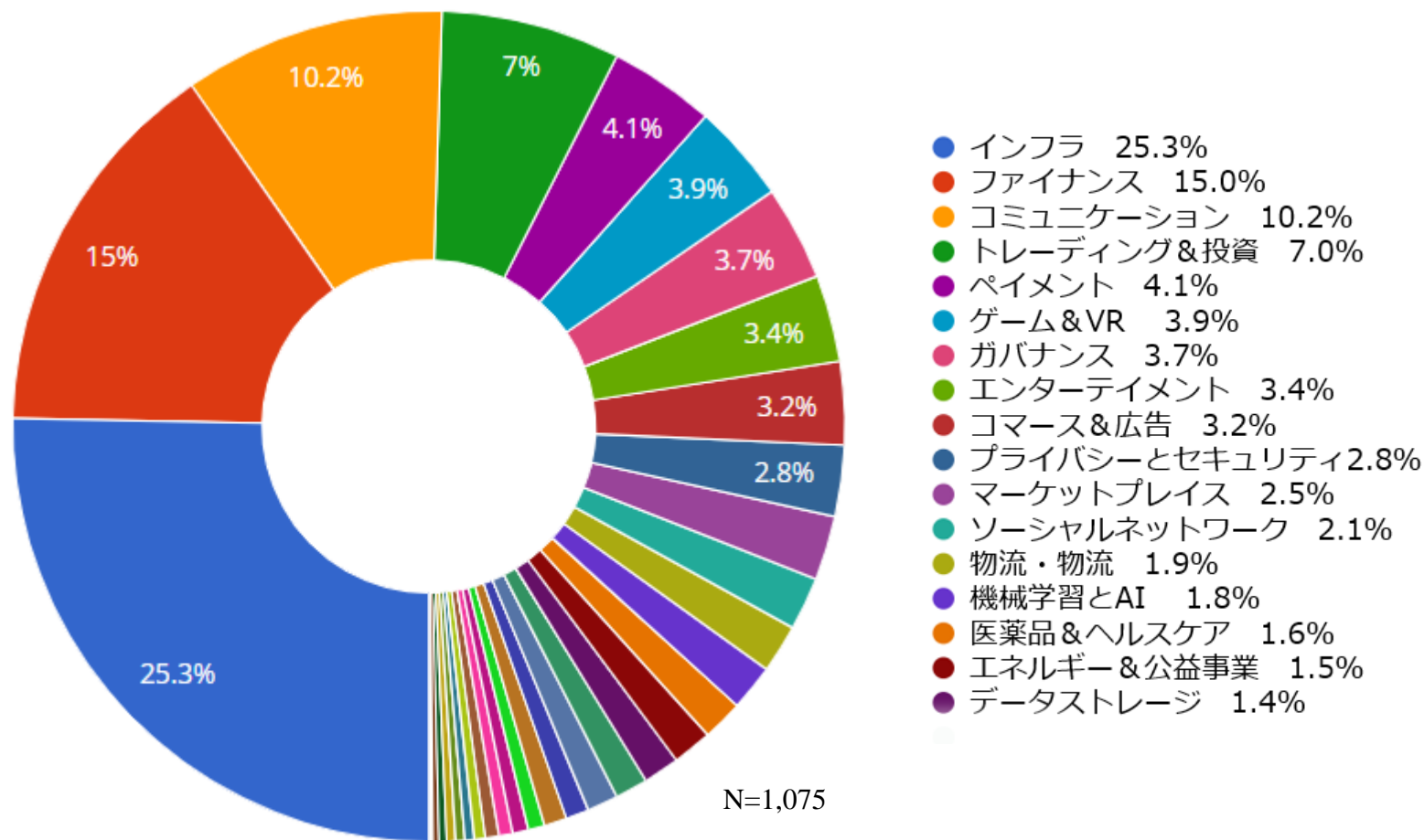
ICOプロジェクトの資金調達金額 BEST10

ICO Name	Amount Raised	Description	Start Date	End Date
EOS	4617億円	EOSは分散型アプリをサポートするプラットフォームです。開発者がこれらのアプリを作成する作業を容易にすることを目的として作られました。	Jun 26, 2017	Jun 01, 2018
Telegram ICO (Private Pre-sale 1 & 2)	1870億円	TelegramのICOは、トークン販売から生み出された資金で、単純なメッセージングサービスを越えたBlockchain技術での機能拡張することを目的としています。	Feb 28, 2018	Mar 31, 2018
Petro (Private Pre-Sale)	808億円	ベネズエラ政府は、独自の暗号通貨を作成し、それを石油の支払い方法として使用することによって経済政策を打ち出しました。これは政府が最初に支持した暗号通貨です。	Feb 20, 2018	Mar 19, 2018
TaTaTu	632億円	TaTaTuプラットフォームは、彼らのBlockchainプラットフォームを通じてソーシャルメディアとエンターテインメントに革命を起こすことを目指しています。コンテンツの消費者は、それを提供することと同様に彼らの視聴料に対して支払われるでしょう。	Jun 11, 2018	Jun 22, 2018
Dragon	462億円	ドラゴンコインERC 20トークンは、ドラゴンのブロックチェーンを搭載したカジノでのアクセスを許可するために使用されます。すべてのカジノ施設はDragon parterのジャンケットによって管理されます。	Feb 15, 2018	Mar 15, 2018
HetaChain (Private+Public Sale)	209億円	HETACHAINは、長年のスケーラビリティのジレンマに対処し、業界規模のトランザクション用に構築された真の民主的統治プラットフォームを推進することに重点を置いた、超高速DPoS + BFTハイブリッドブロックチェーンネットワークです。	Oct 01, 2018	Dec 10, 2018
Bankera	166億円	Bankeraは、ブロックチェーンを管理する銀行です。銀行システムに似た構造を使用して、暗号通貨を完全にサポートしながら、支払い、ローンおよび預金投資などの金融サービスを提供することができます。	Nov 27, 2017	Mar 01, 2018
tZERO (STO)	147億円	tZEROは、伝統的な証券市場に代わるものとしてそれ自体を提供するフロントエンド取引システムを構築することを目指しています。リスク管理などの機能を使用することで、ユーザーは安全にトークンを過剰に購入したり間違っただものを購入したりすることなく購入できます。	Dec 06, 2017	Aug 06, 2018
Basis	146億円	Basisは、アルゴリズムのある中央銀行による価格安定性のある暗号通貨です。その目的は、暗号通貨に購買制限があり、その価格にそれ以上の大幅な変動がないようにするための金融政策を策定することです。	Apr 18, 2018	Apr 18, 2018
Orbs (Private Sale)	129億円	Orbsは、実社会のビジネスで機能する最初のブロックチェーンです。暗号通貨を消費者レベルの取引所に持ち込むことを目的としています。大企業はOrbsを快適に使用して、ブロックチェーンで機能するだけでなく現実世界のビジネス環境にも対応するアプリを作成できます。	Feb 15, 2018	May 15, 2018

大型ICO(合計9100億円) は2018年ICO全体 (合計2兆2638億円) の40%を占める

3) 2018年 世界の仮想通貨ICOプロジェクト資金調達カテゴリー

(期間：2018年1月1日～2018年12月31日)

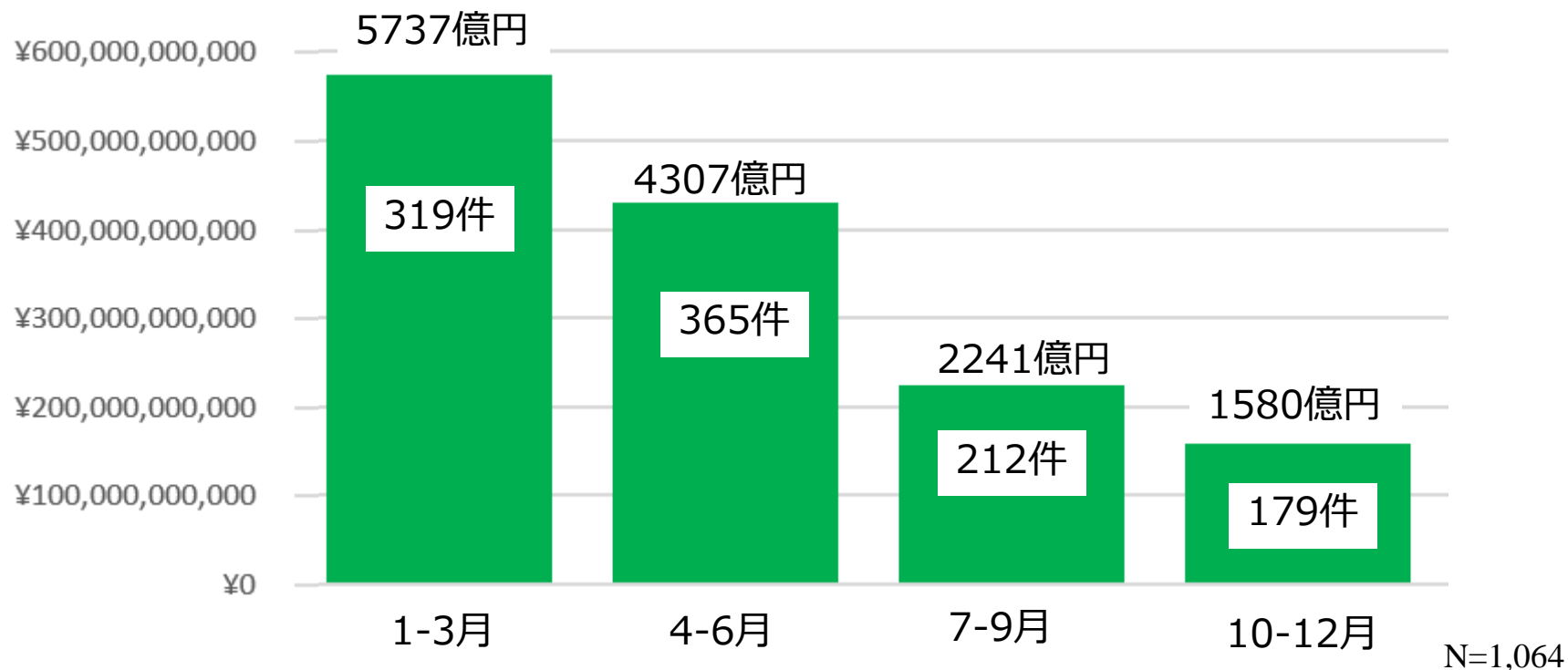


インフラとファイナンス、コミュニケーションが50%を占める

4) 2018年 世界の仮想通貨ICOプロジェクト四半期別資金調達

(100億円未満プロジェクト)

(期間：2018年1月1日～2018年12月31日)



調達金額100億円未満のプロジェクト1,064件における4半期ごと調達金額1-3月に比べ10-12月は件数は約1/2となり、調達額は1/3以下となっている。

※100億円以上を調達したプロジェクトは含まれておりません。

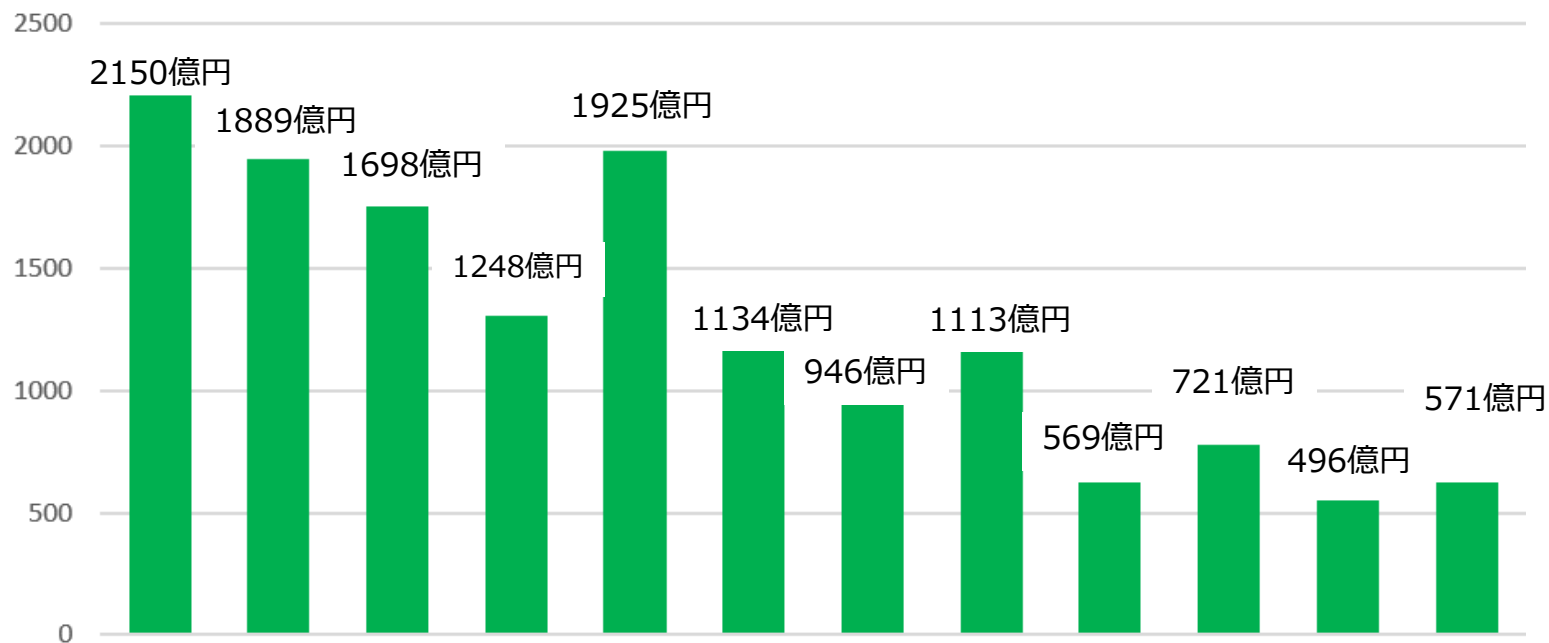
※金額は日本円 (1ドル=110円換算)

参考: コインスケジュール <https://www.coinschedule.com/stats.html>

調査：2019年1月18日 株式会社世界 まとめ

5) 2018年 世界の仮想通貨ICOプロジェクト月別資金調達(100億円未満のプロジェクト)

(期間：2018年1月1日～2018年12月31日)



プロジェクト件数

95

110

108

120

143

97

90

68

54

65

65

49

1プロジェクト当たりの
平均調達額

23億

17億

16億

10億

13億

12億

11億

16億

11億

11億

7億

11億

N=1,064

調達金額100億円未満のプロジェクト1,064件

件数は5月（143件）をピークに減少。1プロジェクト当たりの調達額も約50%減。

※100億円以上を調達したプロジェクトは含まれておりません。

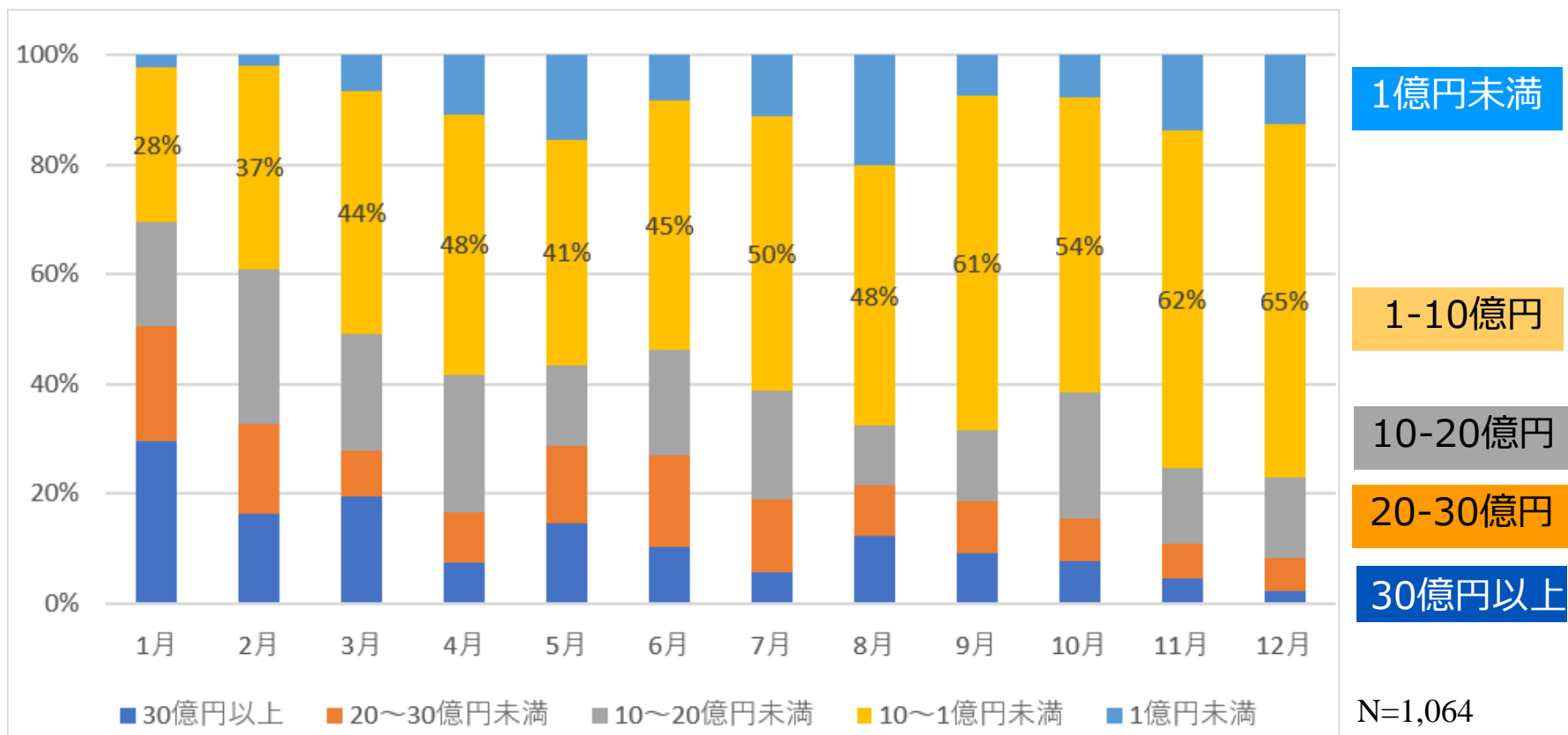
※金額は日本円（1ドル=110円換算）

参考：コインスケジュール <https://www.coinschedule.com/stats.html>

調査：2019年1月18日 株式会社世界 まとめ

6) 2018年 世界の仮想通貨ICOプロジェクト資金調達額の分布

(期間：2018年1月1日～2018年12月31日)



1月には30億円以上を調達したプロジェクトは28件あったが、12月ではわずか3件。
12月は70%以上のプロジェクトが10億円以上を調達できていない。

※100億円以上を調達したプロジェクトは含まれておりません。

※金額は日本円 (1ドル=110円換算)

参考: コインスケジュール <https://www.coinschedule.com/stats.html>

調査: 2019年1月18日 株式会社世界 まとめ

7) 2018年ICO資金調達における考察と所見

<考察>

- ・ 2018年世界中のICOの調達資金総額は2兆2638億円で前年対比530%増である。
(2017年ICO資金調達金額は4269億円)
- ・ 2018年世界中で開催されたICOのプロジェクト数は1,075件で前年対比511%増である。
(2017年ICOプロジェクト数は210件)
- ・ EOSやTelegramなど100億円以上を調達した大型ICOは11件で調達金額合計は約9100億円。これらは2018年ICO全体の調達額の約40%を占める。
- ・ ICOプロジェクトのカテゴリーではインフラとファイナンス、コミュニケーションが全体の約50%を占める。
- ・ 調達金額100億円未満のプロジェクト1,064件を対象にした調査では、5月の143件をピークに件数が減少、12月単月では49件となった。
- ・ 好調な上半期に対し下半期は市場低下が見られ1プロジェクト当たりの平均調達額も減少。
- ・ 減少原因は各プロジェクト当たりの調達額の減少であり、1月中に30億円以上を調達したプロジェクトは28件であったが、12月ではわずか3件のみである。

ICO資金調達市場が低迷した理由として

- ・ 各国のICOに対する規制強化（金融庁の注意喚起）による投資家離れ
- ・ 投資家のリテラシー向上（優良プロジェクトを厳選し投資）
- ・ クリプト市況の低迷が影響（クリプトファンドや機関投資家の数と投資額が減少）
など、仮想通貨投資への不安定要素や不信感が増大したことと考えられる。

しかしBlockchain技術が発展し続ける中で将来成長が見込まれる優秀なICOプロジェクトが確実に誕生しており、エンジェル投資よりも数倍大きい数億円単位の投資を受けることができることから今後もスタートアップベンチャーなどが継続的に実施する調達手段と思われる。

8) 今後の予測 注目されるSTO（セキュリティトークンオファリング）

今後、どのようなプロジェクトが調達を行えるのかを各国ベンチャーキャピタルの意見を参考に記述する。仮想通貨で投資を行うクリプトファンドではアジア、欧米と若干傾向は異なるが以下の様な優秀なプロジェクト(PJ)は今後も調達が可能であると思われる。

- ・ 優秀なBlockchainのCEOやエンジニアがけん引する。または既存大手企業が実施するPJ
- ・ 画期的なビジネスモデルでMVP（minimum viable product）が存在し将来の成長が大きく見込めるPJ
- ・ 堅実な事業計画書（IPOと同様）が必要でグローバル展開でドライブがかかるPJ
- ・ STO（セキュリティトークン）などの財産を担保できるPJ

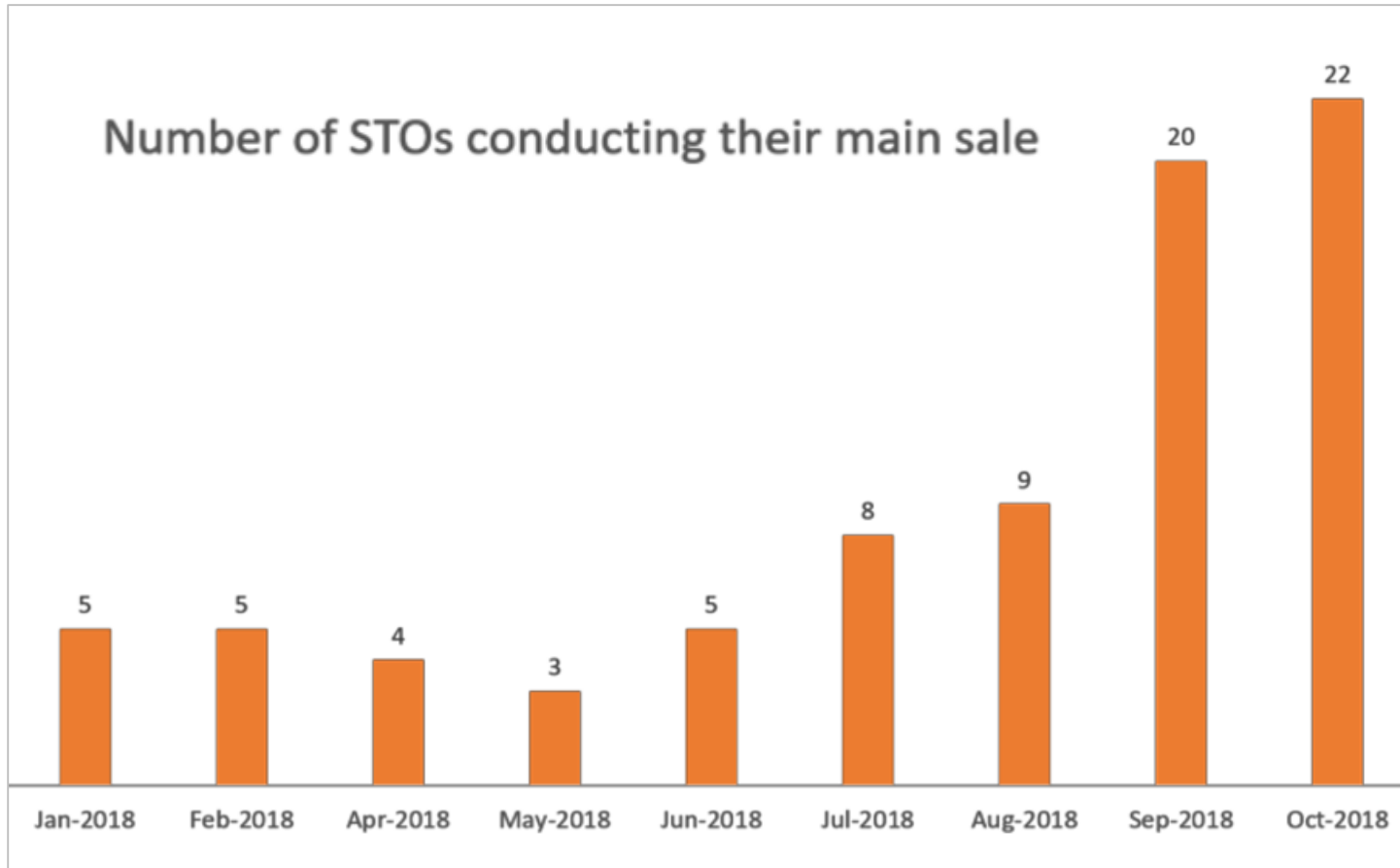
今後ICOを行うプロジェクトでは事業の発展性だけでなく現時点での完成度と信頼性を今まで以上に証明する必要があると思われる。

STO（セキュリティトークンオファリング）は、トークン発行者が自分の行動に責任を負うような仕組みで不正で遵守されていないICOに代わり、各国金融庁の法的境界内で動作するリアルタイムデジタル資産の新しいユースケースとしての確立されている。

セキュリティトークンは本質的に金融証券であるため、有形資産、利益、または会社の収益によって支えられ、STOは法規制およびコンプライアンスのもと資産の裏付けを確実にし投資家に対する説明責任を負わせることができる資金調達手法である。

9) STO (セキュリティトークンオファリング) による調達の実況

2018年より多くのSTOがスタートされており、現在120以上のプロジェクトがSTOによる資金調達を開始している。



10) 活躍中のSTOのプレイヤー

<セキュリティトークンプラットフォーム>



<取引所>



<トレード>



120のSTOプロジェクトは米国、シンガポール、マルタ共和国など各金融庁の管理下で現在進行形で進められており、すでに100億円以上を調達しているプロジェクトも存在する。現在プライベート・プレースメント（私募）として調達されており、法整備が進む中、STOは今後の資金調達手段として急加速するとされている。

株式会社世界ではICO STOの資金調達コンサルティングを行っております。
お気軽にお問合せください。

<http://sekai-go.jp/>

会社概要

会社名 株式会社 世界
 設立 2012年1月19日
 資本金 4,500万円（資本準備金含む）
 代表 小林一弘
 東京オフィス 東京都東京都新宿区新宿6-27-30
 新宿イーストサイドスクエア3階
 台湾オフィス 台北市中山区南京東路2段137號14樓
 マルタ共和国 152/No.8, Triq in-Naaxxar, San Gwann, SGN 9030, Malta
 事業内容 ■ インターネットでの日本不動産販売事業
 ■ インバウンドマーケティング事業
 ■ ICO,STOコンサルティング事業



<Our clients>



<代表者紹介>

1997年株式会社インターネット広告社を創業。(株式会社ネットフロンティア)

2011年株式会社世界を創業。

世界中の仮想通貨業界の著名人BEST200名とネットワークを持ち、世界でのMeetupイベントを開催
 中国・韓国・台湾・香港・シンガポール、ドバイ、スイス、ドイツなど世界の投資家、投資ファンドを対象に
 ファンドレイジングを実施。

ヨーロッパブロックチェーンビジネス会議所（European Chamber of Crypto Commerce）の日本代表